

**平成22年度
横浜市立高等学校
第三者評価書**

横浜市立高等学校評価委員会

はじめに

横浜市立高等学校は、学校ごとに中期学校経営方針を策定し、市民から信頼が得られ、期待に応えることができるよう、教育の質の向上や特色ある高校づくりに取り組んでいます。

教育の質の向上や特色ある高校づくりを進めていくうえでは、自己評価を中心とする学校評価が大変重要となります。この学校評価をより有効に実施するためには、自己評価を柱とする P-D-C-A (Plan-Do-Check-Action) マネジメント・サイクルを確立するとともに、各高校の自己評価と自己改善を高めることができるよう、学校関係者評価及び第三者評価を組み合わせて行うことが必要となります。

特に、学校に直接かかわりをもたない専門家等が、教育活動その他の学校運営について、専門的、客観的立場から評価を行うことで、学校の自己評価の精度を高めることが期待できます。

高校は義務教育とは異なり、生徒や保護者から選択される学校とならなければなりません。この第三者による客観的評価は、生徒や保護者から選択されるための信頼を確保する1つの指標になるものと考えます。

「第三者評価を活用した学校評価」の手法として、各学校から提出された自己評価書や学校関係者評価書等についての書類調査と、直接に学校を訪問し、授業参観や管理職等からのヒアリング、施設・設備見学や生徒との対話等の訪問調査を実施しました。

この第三者評価書は、その結果を基にした評価を取りまとめ、作成しています。

横浜市立高等学校評価委員会での評価結果を基に、各市立高等学校の教育活動その他の学校運営が効果的に改善され、さらに、横浜市立高等学校全体が魅力と特色ある高校となることを期待しています。

平成22年9月

横浜市立高等学校評価委員会

委員長 玉川大学教職大学院教授 小松 郁夫

目 次

I 訪問調査校	
1 東高等学校	・・・ 1
2 桜丘高等学校	・・・ 5
3 横浜総合高等学校	・・・ 9
II 書類調査校	
1 金沢高等学校	・・・ 13
2 みなと総合高等学校	・・・ 14
3 鶴見工業高等学校	・・・ 15
4 南高等学校	・・・ 16
5 横浜商業高等学校	・・・ 17
6 横浜商業高等学校別科	・・・ 18
7 戸塚高等学校	・・・ 19
8 横浜サイエンスフロンティア高等学校	・・・ 20
9 戸塚高等学校定時制	・・・ 21
III 参考	
1 横浜市立高等学校評価の体系図	・・・ 22
2 横浜市立高等学校評価委員会委員構成	・・・ 22
3 訪問調査・書類調査担当校一覧	・・・ 23
4 各校の重点取組項目一覧	・・・ 24
5 訪問調査校の評価について	・・・ 25

I 訪問調査校

1 東高等学校(訪問調査日:平成22年6月21日)

東高等学校の概要

創 立 : 昭和 38 年 2 月

住 所 : 横浜市鶴見区馬場 3-5-1

学 校 長 : 田村 泰行

課 程 等 : 単位制による全日制の課程 普通科

クラス数 : 19 クラス

生 徒 数 : 731 人 (男子 295 人、女子 436 人) 平成 22 年 5 月 1 日現在

■大項目 1 教育活動の状況

小項目 1 各教科等の状況

◇評 価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

◇講 評

□教育課程の状況

○ 学校教育目標を達成するための方策の2本柱として、学習活動、特別活動・部活動を位置付け、教育課程の整備、効率的運営、十分な効果の実現のための取組がなされている。平成16年度から単位制を導入しているが、基礎・基本の習得と生徒の進路希望、興味、関心などによる主体的選択とのバランスを考慮し、選択の幅を、年次が進むにつれて漸進的に増加させるカリキュラム編成を採用している。教育課程全般に関する生徒の評価はおおむね良好であり、評価規準、評価方法の生徒への説明についても肯定的な評価が高くなっている。しかしながら、保護者への周知は十分であるとはいえない状況であるので、保護者に丁寧に説明していく必要がある。選択科目に関する生徒の満足度については、かなり高いレベルにあるが、人的、設備的条件などから選択調整が避けられない場合もあることを生徒に丁寧に説明するなど、選択調整についてさらに検討することが望まれる。

□教科指導の状況

○ 授業内容や授業方法にかかわる生徒の評価が高いのは、研究授業を計画的に実施し、教職員が相互に授業改善に取り組んでいることなど教職員の努力の表れと見ることができる。生徒の授業評価では、生徒自身の予習・復習などの主体的な取組に対する評価は低い。高校入学当初からの学習指導に配慮する必要がある。また、家庭での学習習慣についても対応が望まれる。

□特別活動・部活動の状況

○ 東高校での教育目標実現のための2本柱に位置付けられている特別活動・部活動への支援、配慮がなされている。しかしながら、昨年度新型インフルエンザに

よる東高祭の中止という事情もあり、その前年度に比べ生徒会活動や学校行事にかかわる教職員、生徒の評価は、十分に高いものとは言いきれない。保護者への説明を含めて生徒への指導、生徒会活動に対する教職員の情報や意識の共有など、より一層の改善が望まれる。

- 部活動にかかわる肯定的な評価の割合は、生徒、教職員、保護者とも高く、入部率も90%以上であり、活発な活動が展開されている。体育館に代表される施設・設備もかなり充実しており、有効に利用されている。とりわけ、体育館総合部室の個人用ロッカーは、生徒が自己の活動の拠点とする上でも注目に値するものである。

小項目2 生徒の状況

◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

◇講評

■生徒指導・教育相談の状況

- 生徒指導や教育相談にかかわる生徒の評価はおおむね良好であるが、生徒一人ひとりへの対応や相談等については、やや低くなっている。また、生徒指導・教育相談にかかわる教職員の評価は十分なレベルとは言い難く、生徒指導・教育相談に関する教職員の協力関係、方針の共有などにかかわる保護者の評価も十分でないことから、個々の生徒への対応の促進、教職員の共通理解の徹底などさらなる配慮が望まれる。
- 生徒の防犯・安全の確保について、教職員の情報共有のための努力がなされている。ただ、授業中の携帯電話、私語の規制などについて、教職員間で共通認識が十分ではない面があるので、なお一層努力をしてほしい。

□進路指導の状況

- 進路指導とそれにつながる学習方法に関する指導は、年度当初の各教科でのオリエンテーション、三者面談による面談週間、模擬試験の実施など熱心に行われている。それに対する教職員の評価は高いが、生徒や保護者の評価は十分なレベルとはなっていない。生徒一人ひとりに応じた進路指導や科目選択指導、自習室、図書室、情報処理室などを活用した学校における課外学習の推進なども考慮に入れてもいいのではないかと。

□保健指導及び環境美化の状況

- 生徒の健康管理、健康意識の喚起、体調不良やけがへの対応については、毎月の保健だよりの発行、保健講話の実施などを行っており、これらに対する教職員の評価はかなり高い。しかしながら、生徒の評価はさほど高くなく、保護者の評価は低いという結果が見られる。健康管理、健康意識等について、教職員、生徒、保護者がともに目を向けるように情報伝達の方法や内容を改善したり、養護教諭の活動と保健体育科の保健領域の授業や学校行事、部活動とのリンクを考えるなどの対応が望まれる。なお、緊急時対応については、当該の生徒、保護者にしか状況が伝わらず、評価において「わからない」という回答が多くなってしまっていることも考慮する必要がある。

■大項目2 学校経営の状況

小項目1 管理運営等の状況

◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

◇講評

□教育目標の設定・実施状況

- 開校当時から変わっていないという学校教育目標は、教育の前提とすべき内容であり、当たり前なことを当たり前でできる人間、物事を正しく判断し、他人に迷惑をかけない人間というユニークな目標を掲げている。生徒には、自分発見、自分発信の実現を求めている。なお、現在も教育目標の精神を踏まえ、現代的な社会の特徴やニーズに合わせた教育課程編成やその運営に努めているが、平成24年度に向けて、現行の教育目標を核としながら、「3つの基本」の知・徳・体と、「2つの横浜らしさ」の公・開を大切な観点として、時代に合う形での教育目標の設定が検討されているようなので、注目していきたい。

□組織運営及び教職員研修の状況

- 経営方針に関する「全教職員の共通理解がなされている」という項目では、教職員の肯定的な評価が必ずしも高くない。どうしてなのか、分析が必要だと思われる。
- 校務分掌については、年次のバランスを重視するなどの方法で業務を行っており、変化する課題やニーズに対応するために、校務運営組織検討委員会を設けている。年次や学級経営の面での教職員の満足度は高いが、校務分掌については解決すべき課題も存在する。校務運営組織検討委員会を中心とした不断の対応が望まれる。
- 互見授業と呼ばれる研究授業は、指導案を作成しての形態で積極的に行われ成果を上げている。その他の研修については、不祥事防止、個人情報管理など特定テーマについての研修が行われているが、教職員個々のニーズに対応した研修は十分ではない。研修の機会をより広げることが望まれる。

□学校経理、施設・設備及び情報の管理状況

- 学校経理は、マニュアルに準拠して適正に行われている。予算編成に当たっては、各分掌のニーズが反映されるよう配慮がなされているが、予算削減の折から、各分掌の要望の調整方法について検討していくことが望まれる。
- 施設・設備の充実度や有効利用についての評価は、体育館などの一部の施設を除くと、全般的には、生徒、教職員、保護者ともに十分に高いレベルとはなっていない。施設・設備は安全第一に管理されているが、その改修にまで行き届いていないとのことであり、教育委員会として予算の拡充も必要なのではないか。

小項目2 保護者・地域等との連携協力の状況

◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

◇講評

□保護者・地域等との連携協力の状況

- P T Aは学校運営に対して熱心に協力している。年3回実施している個人面談、年次別保護者会、帰国生徒保護者会など積極的に保護者との連携を図っているようだが、保護者のこれらについての評価は高くないことから、情報伝達の方法を工夫するなど周知への対策が望まれる。地域連携では、部活動単位での小学校との交流や地域センターでの活動、ケアセンターや作業所との交流、清掃活動や防災訓練への参加、学校行事への参加の呼びかけなど日常的な活動を積み重ねている。特に、地域の保育園との連携活動を授業の一環に組み込んでいるなどの取組がユニークであり、今後も継続が望まれる。

■危機管理の状況

- 危機管理にかかわる事柄については、学校安全計画に基づいて、体験学習型の防災訓練や避難誘導方法の確認等の活動を実施している。このことに関する教職員の評価は高いが、生徒、保護者の評価はあまり高くない。日常的な危機管理・防災意識を生徒のみならず保護者にも啓発し、認識を高めることが望まれる。

□学校に関する情報公開の状況

- 受検生向けの学校説明会、学校見学会を夏、秋の2回行っている。また、中学校が主催する学校説明会や合同説明会にも協力し、さらには、ホームページに入学案内を掲載するなど、積極的な広報活動を行っている。学校説明会での在校生の参加が計画されており、成果が期待される。
- 保護者との連携をより一層図るためにも、ホームページなどの充実が望まれる。ホームページに保護者や地域向けのタグがないので、保護者や地域連携にかかわる情報の掲載やその方法について検討することも有益である。

■学校の総合評価

◇総合評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

◇講評

- 学校全体は落ち着いた雰囲気を感じられ、印象として生徒がおとなしい感じを受けた。授業や部活動は熱心に取り組まれており、健全な若者の育成に向けて努力している姿勢がよく理解できる。こうした姿勢は、学校案内に実に明確に表現されており、高く評価できるものである。学校案内に示された内容を、生徒も確実に理解できるようにすることがより一層の教育効果につながると推察されるので、生徒に対して丁寧に説明していくことが望まれる。また、教職員にはより一層活力ある取組を期待している。
- 市立高校で唯一、海外帰国生徒を受け入れている。近年、入学者が減少しているとのことであるが、貴重な特色であり、受け入れ方法や教育内容の工夫をするなどして、維持して行ってほしい。
- 学校での教育活動は、保護者や地域の方々の理解と有形無形の支援を得ることから、格段に活性化することから、保護者、地域への広報活動、情報提供にさらなる配慮が期待される場所である。

2 桜丘高等学校(訪問調査日:平成22年6月25日)

桜丘高等学校の概要

創 立 : 大正 15 年 11 月

住 所 : 横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘 2-15-1

学 校 長 : 天野 真人

課 程 等 : 単位制による全日制の課程 普通科

クラス数 : 21 クラス

生 徒 数 : 829 人 (男子 357 人、女子 472 人) 平成 22 年 5 月 1 日現在

■大項目 1 教育活動の状況

小項目 1 各教科等の状況

◇評 価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

◇講 評

■教育課程の状況

- 平成 16 年度から単位制を導入しているが、生徒の現状を把握し、45 分授業から 50 分授業への変更や定期試験回数の変更、日本史必修化への対応のための教育課程の変更など、前向きに検討・実施されている。また、家庭学習の習慣をつけるための取組も実施し、学校全体として生徒の学力向上に向けて積極的に取り組んでいこうとする意識が高いと感じた。
- 生徒による評価で、「自分にとって必要な科目や興味・関心を満たす科目が設定されていますか。」という項目の肯定的な評価が 69%、「学校はあなたの進路にあった科目選択ができるように指導していますか。」という項目の肯定的な評価が 64.3%である点が気になる。単位制の特性をもっと生かして、限られた人員配置の中で、2、3 年次共通履修科目の設定とか、隔年開講科目の設定等の工夫が必要であると考えます。

□教科指導の状況

- 「学力向上研究校」として、全国模試の導入や定期試験の年 5 回制により、生徒一人ひとりのデータの蓄積について、生徒個人がそれを活用し、自分の学習状況の把握・進路への検討資料として活用できるようにシステム化されている点は、現代の生徒にとってより興味を持たせる、メリットの高い方法だと思う。データ集積が多くなり、より精度の高い分析となり、生徒の学力向上につながることを期待する。また、すべての生徒がそのデータについて自己管理できているかを把握し、不十分な点があった場合の支援など、教職員間での情報共有をしておく必要があると思う。データとコミュニケーションを上手に活用できる生徒、教職員となることを期待する。
- 保護者における教科・科目の評価規準や評価方法の認識が低いので、年度当初に、年間指導計画またはシラバスを教科・科目ごとに生徒を通じて保護者に

配布して周知するなどの工夫が必要である。

□特別活動・部活動の状況

- 特別活動や部活動については、生徒たちが生き生きと活動している様子が生徒による評価からうかがえる。学校行事の見直しや部活動の在り方などを検討しているようだが、生徒とともに考える場があれば、より生徒たち自身が学校への愛着をもち、自分を見つめる機会になるのではないか。部活動については部顧問会を中心に運営を行っているようであるが、部活動運営に対して教職員間の共通理解を図ることも重要である。

小項目2 生徒の状況

◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

◇講評

□生徒指導・教育相談の状況

- 生徒指導に関する教職員の意識は高く評価できる。生徒の評価が低いのは、生徒指導ではなく、生徒理解・教育相談など生徒支援に関するものであると思う。今後は、ケース会議等、生徒一人ひとりについての支援に関する組織の充実を期待する。また、生徒指導については、学校生活全般が学校管理下外においても当たり前適用できる状況が必要である。様々な環境下における個々の把握は難しいことだが、教職員間の情報共有や気付きに期待する。

■進路指導の状況

- 教職員全体が生徒たちの状況を把握しようと努めながら進路指導に取り組んでいる感じが感じられる。しかし、それらの取組が生徒の評価につながらないのは、それぞれの取組が単発であることが原因と考えられる。事前準備と特に取組後のフォローを計画的にすることで、生徒の評価はかなり改善されると考える。データを基に生徒の状況を把握して、きめ細かな指導ができるよう、教職員の意識向上を期待する。
- 学力向上と進路指導のために家庭での学習習慣の確立の必要性はいうまでもないが、宿題や予習・復習だけではない家庭学習の定義について、学校から新たに生徒、保護者に示す必要がある。生徒一人ひとりに応じた進路指導や科目選択指導、自習室、図書館、情報処理室などを活用した学校における課外学習の推進なども考慮に入れてもいいのではないか。

□保健指導及び環境美化の状況

- 生徒への保健指導については、教職員はしっかり行っていると感じた。環境美化指導も、校舎内の清掃状況から良好と感じた。

■大項目2 学校経営の状況

小項目1 管理運営等の状況

◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

◇講評

□教育目標の設定・実施状況

- 現状を把握し、きちんと目標を掲げている。目標実現に向けての取組の方法や進め方を選択し、教職員ががんばろうという意識を高く持っている様子が見えたと感じた。教職員の多くは肯定的な評価をしており、保護者にも理解されていることは大いに評価できる。生徒の評価が低いのは、教育目標が進路実現の場面や卒業してから理解される面が多々あるからだと思えるが、あらゆる教育活動を展開する中で、教育目標について教職員自身が意識することによって、生徒の評価の向上が見られると考える。

■組織運営及び教職員研修の状況

- 「教職員が相互に理解し、信頼関係をもって日常の教育活動にあたることができている。」という項目の教職員の肯定的な評価が高いことから、教職員の関係が良好なことがうかがえるとともに、努力していると感じる。今後は、一例であるが、学力向上研究校としての組織づくりを考えた再編をして、組織力やチーム力の向上を目指し、教職員の意欲向上を図ったらどうだろうか。また、授業力向上の取組は、大量退職時代を向かえ「授業力の継承」という点からも期待する。さらに、学校の課題解決に向けての取組のために、教職員の増加も検討する必要があるのではないかと考える。

□学校経理、施設・設備及び情報の管理状況

- 施設・設備についての教職員の満足度は高く、私学にも負けないものがあると思う。生徒の満足度を向上させるためには、改修などをアピールすることも大事であるが、生徒自身が教育活動の中で、体験・体感するようなものを構築したらどうか。施設の問題も、プラスに変えられるのであれば、生徒たちの学力・行動力・生活力向上につながっていくと思う。

小項目2 保護者・地域等との連携協力の状況

◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

◇講評

□保護者・地域等との連携協力の状況

- PTA活動が円滑に進められている様子は、教職員、保護者の高い評価から感じられ、学校への信頼感が醸成されている。今後、より一層の連携協力体制になるよう発展させてほしい。また、これから生徒たちを育成していく上で、社会貢献がキーポイントとなる。協力してくれる地域・企業を肌で感じることで将来の彼らを支える礎になることから、地域との連携協力については、中学校区での学校、家庭、地域の地道な活動やこれからの地域貢献活動に期待す

る。今後も積極的に場の提供とつながりを持ってほしい。

□危機管理の状況

- 教職員の間で保健安全、防災対策がしっかりと認識されていることは評価できる。防災・防犯など様々な場面での危機管理は、日ごろの積み重ねが大切であるとともに、地域でも頼りにされるような取組が大切である。保護者に対する広報と、生徒に対する啓発活動に工夫が必要であるとする。防犯対策にも具体的な対策をとる必要がある。

■学校に関する情報公開の状況

- ホームページ委員会を立ち上げたことにより、ホームページの充実が見られることについて評価できる。保護者、地域に理解してもらえる学校になるために、ホームページの充実や広報は今後とも大切である。さらに、保護者、生徒の意見等を反映したホームページとなることを期待したい。また、配布プリント等については、保護者に渡ることが第一の目的であるとするなら、一般的なお知らせなどはメール便などの活用も考えられる。

■学校の総合評価

◇総合評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

◇講評

- 生徒は、学校行事や部活動に積極的に参加し、意欲的に高校生活を送っていることが感じとれた。授業においても、授業規律が確立されており、集中して取り組んでいた。学校全体が醸し出す印象がすばらしく、とても好感がもてる。今後は、生徒支援や進路支援の内容を中心とした生徒一人ひとりを対象とした支援シートのようなものをつくって、学校全体が個々を支援するような体制を構築すれば、生徒、保護者の期待により一層応えられると考える。また、アンケートの集計結果から教職員の意識と生徒・保護者の意識にかなりの違いが見受けられた。一時期流行った「学校ナビ」などを作成し、生徒、保護者に対して入学時に配布するなどして、学校の方針などを平易な言葉で伝え、周知に努める必要がある。
- 情報の共有・コミュニケーション力など生徒に求めるものについては、教職員自らの実践が大切である。その点、職員室の狭さからくるミーティング方法は、各々のデスク上の本立てが邪魔することなく、お互いの顔を見ながら職員会議ができるという点で、かえってよいことではと思う。学校長はじめ教職員の方々が、生徒たちの話をするときの目は、愛情深いものであった。

3 横浜総合高等学校(訪問調査日:平成22年6月30日)

横浜総合高等学校の概要

創 立：平成13年11月

住 所：横浜市中区翁町2-9-10

学 校 長：大塚 宏

課 程 等：単位制による定時制の課程 総合学科

クラス数：32クラス

生 徒 数：1075人(男子475人、女子600人)平成22年5月1日現在

■大項目1 教育活動の状況

小項目1 各教科等の状況

◇評 価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

◇講 評

■教育課程の状況

- 単位制、定時制、総合学科、三部制という4つの特色を教育課程で具現化するために、様々な取組の工夫がなされてきている。しかし、教育課程の状況に関する教職員と生徒の評価がともに70%前後というのは、多様な科目設定が生かされていないことに由来しているのではないかと考える。また、多様な生徒の受け入れという当初の方針に対して、普通の高校生としての経験をしたいという生徒の希望もあるので、調整が必要だと考える。I部からIII部までの生徒に対して教育課程が1つというのも課題ではないかと考える。また、保護者からのアンケート回収率が低いことが気がりであるが、生徒、保護者からの意見を丁寧に取り扱いつつも、単位制による総合学科という特徴からあらためて見直しをする必要性を感じる。すべての生徒に、より充実した高校生活を送らせるために、ある程度カリキュラムを系列化して、生徒たちへのライフスタイルモデルを学校として生徒、保護者に提案する方法を考えてはいかがだろうか。

□教科指導の状況

- 「わかりやすい授業を行っている」という項目では、教職員の肯定的な評価が83%であるのに対し、生徒は53%と厳しい評価となっている。多くの未履修と未修得を抱えながらの講座数が約450ということについては、速やかな原因分析と改善が必要である。生徒の希望を優先するきめ細かなカリキュラム編成には敬意を表すが、学校から生徒への何通りかの基本的なコースの提示など、開設講座の規模縮小と内容の充実を目指した方が良いのではないだろうか。

□特別活動・部活動の状況

- クラス担任制をとってホームルーム活動を指導していることは、改善された取組である。生徒会活動を活性化するために、クラス代表の代議員会を立ち上

げて工夫していることは評価できる。ただ、Ⅰ部からⅢ部までの生徒の生活時間帯が違う中で、活動時間を確保することは難しい。当然教職員の勤務体制も課題となっているようだ。

- 6月と12月の年2回開催される、横浜総合高校をより良い学校にするために、生徒と保護者・地域の方々と教職員が一緒に自由に話し合う三者懇談会のような生徒参加型の学校改革手法は、たいへん素晴らしく他の学校にも広めたい取組である。中学校時代に集団としての肯定的な経験をしていない生徒が多く集まっている中で、今後も力を入れて継続してほしいと考える。

小項目2 生徒の状況

◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

◇講評

■生徒指導・教育相談の状況

- 「相談事や悩み事について相談できる先生がいる」という項目では、生徒による肯定的な評価が41%しかない。改善策として、担任団やケース会議、サポート委員会で情報交換されているとのことだが、指導できた数はそれほど多くないのではないか。ケース会議の励行は生徒理解に有効であるが、教職員の多忙感の中で十分に時間的な保証がないところに改善の余地がある。また、生徒指導を組織的に行えるような体制の構築が緊急の課題のように見受けられる。生徒数が1,000名を超えることから判断して、スクールカウンセラーの常駐化が必要であると感じた。

□進路指導の状況

- 「進路について気軽に先生に相談することができる」という項目では、生徒による肯定的な評価は56%である。しかし、卒業時の進路未決定者の割合が40%弱と併せてみると、否定的な生徒は相談できないか、相談しない生徒に該当しているのではないだろうか。経済状況が厳しい折、就職希望者へのきめ細やかな手立てが望まれる。
- 生徒の自主性にゆだねたカリキュラム編成は、高校卒業後のスムーズな進路決定への妨げになる可能性もあるように思える。この年代の生徒に対して、上級学校への進学を含めた道筋を、ある程度提示していくことが大切ではないだろうか。生徒、保護者へのより積極的なアプローチの必要性を感じる。

□保健指導及び環境美化の状況

- 教職員によるカウンセリング活動を生徒理解研修で行っており、課題のある生徒に対応していることは評価できる。
- 三部制であっても、自分の教室という意識を大切にさせており、校内は清掃が行き届いていて清潔である。日頃からきれいな環境の維持を志していることが理解できる。月例清掃や水曜日教室清掃などの環境美化活動のさらなる拡充に期待したい。ただ、自習室の使用状況などを聞くと、やはり「居場所」を求めている生徒の心情を考えてしまう。ホームルームといえる生徒の居場所作りを考えていただきたい。また、思春期の生徒たちへの積極的な性教育、健康教育、薬物教育など、さらに計画的に推進してほしい。

■大項目2 学校経営の状況

小項目1 管理運営等の状況

◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

◇講評

□教育目標の設定・実施状況

- 「学校教育目標の実現に向け全職員が取り組んでいるか」という項目において、教職員の肯定的な評価が49%という状況は大きな課題と考える。また、生徒の評価で学校生活の充実感や入学の期待感が60%台となっており、横浜総合高校についての事前の広報を充実させることが必要だと考える。

■組織運営及び教職員研修の状況

- 「学校教育目標・学校経営計画に沿って編成され、構成や人数も適切に配置されている」という項目において、教職員の肯定的な評価が32%しかないことは大きな課題である。訪問調査で、三部制であることにより教職員の会議において定例の時間が取れないことなどの指導上の不安が強く報告された。早急に改善されることを望む。
- 入学する生徒の学力的な変化が開校当時と比べてあるように感じる。学力という点においては様々な生徒たちがおり、生徒のレベルにあった授業改善を進めていかななくてはならない。校内での研究授業や教科研究会などの授業交流の中で研鑽し、授業の質を高めてほしい。また、教職員の年齢構成のバランスを図りつつ、年次会や分掌会議、研修会などを開催する時間を確保して、質的向上を目指してほしい。

■学校経理、施設・設備及び情報の管理状況

- 学校経理については、横浜市の条例に則した処理をされているということだが、今年の春先の特定業者による不祥事を他山の石としてほしい。
- 施設については、1,000名規模の学校としては狭いので、今後の移転に合わせて整備する必要がある。
- 350台のパソコンとネットワークの管理、メンテナンスなどは教職員だけでは困難に思われる。民間委託などは難しいだろうか。また、これからの時代は、個人情報や携帯電話及びパソコン等の情報機器の裏サイトなどについての指導が必要だと思う。

小項目2 保護者・地域等との連携協力の状況

◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

◇講評

■保護者・地域等との連携協力の状況

- 三者懇談会はたいへん意欲的な取組であり、その実績は評価できる。今後は

生徒、保護者とそして地域の方々のより広範な参加を募って、規模を拡大してほしい。そのような取組が、保護者の関心を高めていくことと信じる。

□危機管理の状況

- 移転計画が進められているが、それまでの間、現在の場所に横浜総合高校が位置するならば、環境的に今以上の防犯意識の必要性が求められる。地域目が少ないことから、防犯対策は必要であり、非常に難しいと思われるが、Ⅰ部からⅢ部の生徒に対しての登下校及び在校人数の把握や、外部からの来校者や侵入者へのチェック機能がさらに求められる。

□学校に関する情報公開の状況

- 学校説明会や学校ホームページなどによる広報活動を丁寧に行っているように思える。学校における一番の情報公開は、授業公開ではないだろうか。

■学校の総合評価

◇総合評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

◇講評

- 横浜総合高校の単位制、定時制、総合学科、三部制という4つの特色は、同時に課題も抱えており、驚きを感じた。学校評価のアンケートに教職員の4分の1が答えていないことは、大きな問題である。回収方法などを改善して、より多くの教職員の回答を基にして学校の組織的、継続的な改善を図っていく必要がある。保護者の回収率の低さについては、学校からの情報提供手段に限界があるかもしれない。入学時に携帯電話からでも情報が入手できる方法を提示しておくことも必要かもしれない。厳しい教育環境の中で、多くの教職員の献身的な努力には敬意を表したい。移転計画が進められている今、それを機会ととらえて教職員、生徒、保護者とが一体となって話し合いを重ねながら、改革を進めていただきたい。「三者懇談会」という他校に例のない有効な取組が成果を上げているようなので、それを活かすこともできるのではないだろうか。今後の移転に合わせて、少しでも教育環境が整備されることに期待したい。

II 書類調査校

1 金沢高等学校(書類調査日:平成22年5月26日)

◇講 評

■大項目 1 教育活動の状況

小項目 1 各教科等の状況

■教育課程の状況

- 単位制から学年制への再移行、文理特進コースの導入と大きな変革に対し、生徒、教職員が肯定的に評価していて、今後の成果が期待される。授業ガイド等を使った科目選択指導により、履修放棄を極力避けることが望まれるが、このことから大学等への進学と社会人としての教養とのバランスに現場がいかに苦慮しているかが読み取れる。

■教科指導の状況

- 教育方針の「学力向上を図る」ための手だてとして、まず予習・復習による学習意欲の向上に取り組んだことは、教科指導の重点化対策の姿勢がよく表れているといえる。学力向上研究校として努力している姿は「わかりやすい授業を行っている」という項目に対する生徒による評価が高いことで理解できる。ただ、生徒に評価規準や評価方法が十分に伝えられているか、また、観点別評価に教職員が慣れているかという点を課題としてあげておきたい。

小項目 2 生徒の状況

□生徒指導・教育相談の状況

- 心に悩みを持つ生徒のためのケアとして、スクールカウンセラーの活用が必要であると感じた。また、生徒のメンタル面の対策のために、教職員研修を積極的に実施することも必要である。

■進路指導の状況

- 進路について高い志を持つ生徒への取組として、進路指導の様々な方法を導入することにより、生徒に刺激を与えている。このようなことが他校の模範となっていることで学力向上研究の成果は出ている。

■大項目 2 学校経営の状況

小項目 1 学校の管理運営等の状況

■組織運営及び教職員研修の状況

- 新たな取組を学校として推進しているなかで、「情報が共有され、チーム力を発揮できる組織体制となっている」という項目に4割の否定的な評価があることが気になるが、校務分掌の見直し等の対策が取られているので、今後の様子を見守っていきたい。管理職と主幹教諭とで学校運営に関する情報交換もなされているとのことなので、円滑な運営が期待できる。

小項目 2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

■学校に関する情報公開の状況

- 募集に関する学校説明会や広報活動について、教職員の8割が肯定的に評価しているが、生徒や保護者の評価がそれほど高くないことは課題である。しかし、学校に関する情報提供の機会や方法について検討し、広報活動に力を注ぐために、ホームページの更新等を積極的に行う必要性を認識し、改善策を立てている。今後に期待したい。

2 みなと総合高等学校(書類調査日:平成22年5月26日)

◇講評

■大項目1 教育活動の状況

小項目1 各教科等の状況

■教育課程の状況

- 約2割の生徒が主体的な科目選択ができていないと答えているが、基礎・基本の重視による「確かな学力の向上」を目指していることから、選択科目が多様すぎると思える面がある。生徒の学習意欲の低下が見られるが、教職員の教科指導の熱意を9割の生徒が感じているので、教職員の姿勢は評価したい。
- 総合学科の位置付けが難しい中で、施設・設備面での改善が見込めない現状では、系列や教科・科目の集約について、その取組を検討する必要があると考える。

小項目2 生徒の状況

■生徒指導・教育相談の状況

- 基本的な生活習慣や学習習慣の確立を目指した取組をしているが、目的意識の強い生徒集団でもエスケープがあることに驚きがある。特に、生徒間のトラブルやいじめについて問題ありと答えている生徒の判断が難しい。高校生にも、心に悩みを持つ生徒のためのケアとして、スクールカウンセラーの導入の必要性を痛感した。

■進路指導の状況

- 進路説明会や進路ガイダンス、進路相談など進路指導の充実については、生徒、保護者から概ね肯定的な評価を得ている。今後は、教職員の進路指導に対する意識を高め、生徒の進路希望の実現に向けた学校全体としての組織的な取組の充実を図っていく必要がある。

■大項目2 学校経営の状況

小項目1 学校の管理運営等の状況

■組織運営及び教職員研修の状況

- 多様な生徒がいる状況と新たな取組を推進しているなかで、「一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織となっている」という項目に対して、教職員の否定的な評価が見られるが、組織の改編を行っており、改善の努力に期待する。教育目標を具現化するためには、全職員が同じ方向を向かないと難しい。校内研修を活用することで引き続き改善に努めてほしい。

小項目2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

■保護者・地域等との連携協力の状況

- 重点取組項目として、生徒を育てるために、あらゆる手段やたくさんの方々の協力を必要としている認識を持って、具体的な手だてを計画している。そのためには、授業参観、保護者会の活用や情報公開・広報活動に対する教職員の意識改革等に管理職のこれまで以上のリーダーシップが望まれる。

□学校に関する情報公開の状況

- ホームページを活用した学校に関する情報公開の充実が図られている。募集に関する学校説明会や広報活動にも力を入れているが、単位制総合学科としての魅力や特色を、さらにアピールするための取組を推進することが望まれる。

3 鶴見工業高等学校(書類調査日:平成22年5月26日)

◇講評

■大項目1 教育活動の状況

小項目1 各教科等の状況

■教科指導の状況

- 生徒の教科学習に対する意欲を喚起する方策の1つとして、チームティーチングの授業法を取り入れて成果が出ている。習熟度による分割授業との違いも研究してほしい。講義形式の座学と実習形式の実験の両立性をどのように図っているか、集中力に課題のある他校の模範となるものを提示できると思う。

□特別活動・部活動の状況

- 生徒の学校行事に対する否定的な評価が、前年度より上昇している。学年減少により行事全体が縮小した影響と思われる。平成22年度は生徒が第3学年だけとなるが、教職員、保護者、近隣小中学校、地域が連携して、生徒にとって充実した学校行事となるよう頑張してほしい。

小項目2 生徒の状況

■生徒指導・教育相談の状況

- 生徒指導の柱に、基本的な生活習慣の定着のため生徒相談を取り入れ、教職員の取組に対する理解度も向上してきている。教職員が減少するなかでもしっかりと生徒指導が行えるよう関係分掌や学年が連携して取り組むことが望まれる。教育相談に関しても学年を中心として生徒一人ひとりに応じた教育相談の充実に向けた取組を推進していただきたい。また、他校同様なきめ細かい指導には限界があるので、スクールカウンセラーの導入を検討する時期にきていると感じた。

□進路指導の状況

- 平成22年度末閉校予定のため、変則的な学校運営を余儀なくされているのは理解できるが、退学者数が多いという問題は最後まで残ったようである。物作りをする人材の育成を担ってきた学校として、ニート・フリーターを出さないための役割と退学者の多さのギャップに違和感がある。しかしながら、経済社会の変貌のため就職難の中で、個別指導することにより就職希望者の内定率が100%という進路指導に敬意を表したい。

■大項目2 学校経営の状況

小項目1 学校の管理運営等の状況

■組織運営及び教職員研修の状況

- 各科の教員集団の尊重と学校としての統一的な運営について、改善を進めていることは理解できる。情報の共有に課題を見いだしているので、OJT等の手法で成果を期待したい。

小項目2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

■保護者・地域等との連携協力の状況

- 学校行事の活性化のため、PTA役員と生徒会との話し合いを持つなど、連携を深める工夫をしている。近隣小中学校や地域との交流についてもこれまで継続して連携してきている。今後も保護者、近隣小中学校や地域と連携を深めてほしい。

4 南高等学校(書類調査日:平成22年6月7日)

◇講 評

■大項目 1 教育活動の状況

小項目 1 各教科等の状況

□教育課程の状況

- 教科会や教育課程研究委員会で検討しながら、生徒の進路や興味・関心に応じた大幅な選択制を取り入れており、生徒にとって満足な科目設定がなされている。

■教科指導の状況

- 授業力向上を目指して授業公開等を行い、スタディサポートや夏季講習の実施など学校全体として学習支援に努めており、生徒も教職員の熱意を受け止め、授業もわかりやすいと感じている。一方、生徒の学習に取り組む姿勢や理解度については十分ではない状況がある。生徒が積極的に学習に取り組み、理解・習得できる授業の在り方について具体的な改善策を示す必要がある。

小項目 2 生徒の状況

□生徒指導・教育相談の状況

- 生徒と教職員とのコミュニケーションや教育相談への対応は、教職員、生徒、保護者のいずれも高い評価とはなっていない。生徒の心のケアなどのためのケース会議開催による情報の共有化を図るなど、具体的に動き出していることは評価できるが、スクールカウンセラーの導入などを検討すべきである。何よりも教職員が改善に向けた意識を共有することが必要である。

■大項目 2 学校経営の状況

小項目 1 学校の管理運営等の状況

□教育目標の設定・実施状況

- 学校の教育目標の実現に向けて、授業、特別活動、部活動等、学校生活全体を通じて取り組んでいる。生徒の学校生活に対する満足度や充実感は、十分な水準にある。保護者も満足し、教職員も自信を持っていることは大いに評価できる。今後も維持されることを期待する。

■組織運営及び教員研修の状況

- 学校全体及び教職員全体の共通理解や円滑な学校運営について評価が十分な水準に至っていないので、情報の共有や相互理解が必要であり、また、頻繁な人事異動についても組織的な引継ぎの在り方等の面から検討が必要である。

小項目 2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

□保護者・地域等との連携協力の状況

- 保護者と学校の連携についての評価は、保護者、教職員ではおおむね良好である。地域との連携も地域の人々とのパトロール、学校施設の開放、学校祭にかかわる情報提供や協力依頼などの方法で行われており、地域では生徒を温かく見守ってくれている。登下校時のマナーなど概ね良好であるが、さらに指導を継続、強化する必要がある。また、地域への情報発信もより積極的に行うことが望まれる。

□学校に関する情報公開の状況

- 学校ホームページについては、緊急時対応がトップページにあることが評価できるが、保護者用タグの追加や連絡誌のWEB掲載などが望まれる。

5 横浜商業高等学校(書類調査日:平成22年6月7日)

◇講 評

■大項目 1 教育活動の状況

小項目 1 各教科等の状況

□教育課程の状況

- 大部分の生徒が生徒の興味、関心を満たす科目が設定されているとしていることは大いに評価できる。進路にあった科目選択についての評価が低いのは、専門学科高校のジレンマであるが、その中でも工夫が見られ高い進学率を誇っていることは評価できる。

■特別活動・部活動の状況

- 保護者や地域の人々も参加できる体育祭やY校祭などの学校行事や部活動に積極的な支援を行っている。学校行事については、生徒、保護者、教職員ともに高い評価をしている。部活動に関する生徒や保護者の意識も高い。これからも他校の参考となる取組としてほしい。

小項目 2 生徒の状況

□生徒指導・教育相談の状況

- 生徒指導や教育相談についての教職員の意識は高いが、教職員の協力的な取組や一人ひとりに応じた組織的取組についての評価は低い。保護者、生徒の評価についても同様な傾向が見られる。丁寧な個別のコミュニケーションや教師間の相互理解、協力体制の構築等の手だてが望まれる。

■進路指導の状況

- 進路指導の充実に対する生徒の評価が必ずしも高くないこと、学校全体としての取組について教職員が高く評価していないことについては、生徒の希望をきめ細かく聞くことや教職員間で共通理解を持つこと、生徒に主体的な進路選択を促すなどの対応が望まれる。

■大項目 2 学校経営の状況

小項目 1 学校の管理運営等の状況

□教育目標等の設定・実施状況

- 学校目標や経営方針が教職員と保護者に理解を得られていることは評価できる。しかし、その実現に向けて教職員の取組については、教職員の評価が低いので、情報交換や共通理解の促進が望まれる。生徒についてみると教育目標への認識度が高くないので、より一層の指導が必要である。

小項目 2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

■保護者・地域等との連携協力の状況

- 広報委員会によるPTAだより、成人委員会による講習会・研修会、おやじの会による環境整備などの活動などしっかりと取り組んでいるのに、PTA活動が活発であるとする保護者が減少している。ホームページが教職員の努力により充実していることから、ホームページ上で保護者向けのPR活動の充実を図るのも方策の一つだと考える。

□学校に関する情報公開の状況

- 中学校訪問、学校説明会、一日体験入学、来校者への個別の説明、学校ホームページの充実等に積極的に取り組んでいる。これらについての生徒、保護者の評価はおおむね良好である。

6 横浜商業高等学校別科(書類調査日:平成22年6月7日)

◇講 評

■大項目1 教育活動の状況

小項目1 各教科等の状況

■教育課程の状況

- 新教育課程に併せて、2,010時間の授業時間を確保し、生徒、保護者も満足していることは大いに評価できる。また、「教育目標・学校経営目標を踏まえて編成されている。」という項目では、教職員の肯定的な評価が100%であることは特筆される。今後は、さらに指導内容を充実発展させてほしい。

□特別活動・部活動の状況

- 特別活動の在り方については、教職員、保護者の評価は高いが、生徒の評価は行事の実施時期も含めて十分でない。部活動がないという特徴から見て、学校行事等の役割は大きいと考えられるので、生徒の主体的活動の促進、実施時期の検討などの手だてが望まれる。

小項目2 生徒の状況

■生徒指導・教育相談の状況

- 日常的に気軽に相談できる関係づくりを重視し、あらゆる機会を利用して取り組んでいる。各担任や養護教諭が窓口となった相談情報の共有化も図られている。2学年合わせて4学級の小規模校の特性を活かして、目の行き届いた教育相談を行っていることが保護者、教職員の肯定的な評価の高い数値から判断できる。若干低い数値が生徒にでているので、個々の悩みに対応できる相談体制の確立、相談にかかわる方向性の確認や情報交換促進などに向けたより一層の取組が望まれる。

■大項目2 学校経営の状況

小項目1 学校の管理運営等の状況

■教育目標等の設定・実施状況

- 理容師・美容師の養成に向けた教育目標を設定し、優れた技術の習得、国家試験に向けた学力の育成、学習方法の獲得、学習習慣の形成に努めている。生徒、保護者には教育方針や学校目標が理解されており、教職員も学校教育目標の実現に取り組んでいることは評価できる。

□組織運営及び教員研修の状況

- チーム力を発揮できる組織運営や研究・研修体制について不十分であると考えている教職員の割合が少ない。小さな組織であるが、情報共有の促進、校務分掌の適切性に向けた再検討、研究・研修体制の構築などの取組が望まれる。

小項目2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

■保護者・地域等との連携協力の状況

- PTA、同窓会、後援会の3団体と連携を図って協力を得ている。地域との連携については、学校開放、地域清掃、地域行事への参加、地域の敬老祝賀会への協力、社会福祉施設への訪問実習などの取組を行い、地域貢献に努めていることは大いに評価できる。地域行事への参加等の地域との交流を通して、生徒に社会人としての在り方を学ぶ機会を多く設定していることは大変重要であり、さらに充実させることを期待する。

7 戸塚高等学校(書類調査日:平成22年6月9日)

◇講 評

■大項目1 教育活動の状況

小項目1 各教科等の状況

□教育課程の状況

- 生徒の進路希望調査を早期かつ具体的に行い、ガイダンス指導を強化していることは評価できる。そのことにより75%近い生徒、保護者が授業科目の設定に満足している。新教育課程の編成準備、教職員の学力向上意識や定期試験の時期・回数変更、スタディサポートの導入など生徒の学習意欲を高める取組などは評価できる。生徒の学力も向上し、志願倍率も高くなっている。

□教科指導の状況

- 指導計画や授業改善の取組など教科指導に対する教職員の肯定的な評価が高いのに対し、生徒の満足度が十分でないことについての調査・分析、それに対する改善策については今後に期待したい。

小項目2 生徒の状況

■生徒指導・教育相談の状況

- 学校の立地にかかわる問題であるが、スクールゾーン対策については、近隣の小・中学校や地域との連携が不可欠と感じる。積極的に小学校のスクールゾーン対策協議会への参加や生徒の自発的取組に期待したい。

■進路指導の状況

- 国公立、有名私大を含めた4年制大学への進学率が高まっている。スタディサポートなどの導入が成果を出しているようである。また、外部講師による学習方法の指導や職業についての説明を取り入れるなど、進路指導について積極的な取組がみられ、生徒や保護者からの評価も高い。受益者負担によらない教員の授業力向上など、さらなる教職員組織内部の努力が求められる。

■大項目2 学校経営の状況

小項目1 学校の管理運営等の状況

□教育目標の設定・実施状況

- 教育目標に基づき、生徒の状況を的確に判断しながら、方針を打ちたて実践に向けての取組への努力を行おうとする前向きな姿勢がうかがわれる。大学進学を見据えた学力保障はもちろんだが、生徒会活動や部活動など充実した学校生活を求める生徒、保護者の声もあるので、さらなる充実を求めたい。

■組織運営及び教員研修の状況

- 将来構想を検討する委員会、教職員の学習会などが自発的に取り組まれていることは評価できる。

小項目2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

■保護者・地域等との連携協力の状況

- 学校ファンドやPTAの支援など、学校を支えるシステムがしっかりとできており、全教室の冷房化の実現やコンピュータの整備など生徒の学習環境の充実に取り組んでいる。今後も生徒の学習活動、生徒会活動、部活動等に活かされることに期待する。また、地域と保護者の厚い信頼に継続して応えていきたい。

8 横浜サイエンスフロンティア高等学校(書類調査日:平成22年6月9日)

◇講評

■大項目1 教育活動の状況

小項目1 各教科等の状況

□教育課程の状況

- 英語コミュニケーション能力の伸長を目指したカリキュラム編成と海外研修制度は評価できる。英語力向上・コミュニケーション能力強化のための取組は、データを蓄積し、生徒にもわかる教育指導に活用している。さらに、英語に関する授業時間数を増やすなどの工夫により、生徒にその必要性を意識化させるとともに、実用性を高めてもらいたい。

■教科指導の状況

- 理数中心の教育体系で、学ぶ楽しさや科学への探究心を高める取組などは評価できる。今後はさらに、様々な興味や関心を持つ生徒一人ひとりのニーズを捉え、きめ細やかに対応していく必要がある。

□特別活動・部活動の状況

- 「生徒会活動や委員会活動は主体的にできているか」及び「学校行事は充実しているか」との項目に、40%を超える生徒が否定的な評価をしている。学校行事の時期や内容の見直し、部活動規定の見直しを図っているようだが、生徒主体の活動である特別活動や部活動についても、学校としての考え方を周知徹底していくことも必要である。

小項目2 生徒の状況

□生徒指導・教育相談の状況

- 「生徒の実態を踏まえた指導計画立案」や「生徒指導への教職員の協力」の項目で、教職員の否定的な評価の割合が高い。生徒の実態を教職員間で共有し、どの教職員でも同じ方針で指導できる体制づくりが急務である。
- 教育方針等を十分に理解せずに入学してきた生徒や心に悩みを持つ生徒のケアとして、スクールカウンセラーの常駐が必要であろう。

■進路指導の状況

- 評価対象が1年次だけであったので、学校として全体的評価をするのは3年後になる。その時には評価結果を広く公開すべきである。

■大項目2 学校経営の状況

小項目1 学校の管理運営等の状況

■教育目標の設定・実施状況

- より優秀な人材を市内から集めるシステムを構築していただきたい。

□組織運営及び教員研修の状況

- 期待される新しい学校として、教職員一人ひとりが抱える校務の量が多く、教職員間で話し合う時間も不足しているという状況ではあるが、組織の改編などの工夫により対応してきた点は評価できる。

小項目2 保護者・地域等との連携協力の状況

■保護者・地域等との連携協力の状況

- 地域等との連携はこれからの課題である。学校の特色を活かし、近隣の小中学校、町内会等との連携や地域貢献活動を通して、生徒たちの豊かな心の形成につなげてほしい。

9 戸塚高等学校定時制(書類調査日:平成22年6月9日)

◇講 評

■大項目1 教育活動の状況

小項目1 各教科等の状況

■教育課程の状況

- 生徒が就学にさまざまな困難をかかえる中で、入学時の生徒数をできるだけ維持させるための努力を感じる。学ぶことの大切さ、今しかできない学習などを、さまざまな状況にある生徒に対して行っている。1・2年では主として生徒指導を、3・4年では学習指導に重点が置かれ、じっくり、ゆっくり学べる教育指導が行われている。生徒のニーズに即した講座の開設、特に就労を促す性質の講座の開設が求められる。生徒の家庭学習の時間について、自己評価書では不満足としているが、現状を考えると十分であると思われる。

小項目2 生徒の状況

■生徒指導・教育相談の状況

- 多様な生徒を抱えていながら、個々の生徒の状況を把握し、きめ細かな指導に取り組んでいる。しかし、教職員数の不足がより積極的な指導を阻んでいるように感じる。この点は、特別活動や部活動の指導にも影響がでている。地域の力などを活用した自主的取組にも期待したい。
- スクールカウンセラーを週3回以上に増やすべきである。

□進路指導の状況

- キャリアガイダンス等に見られるが、就職状況の悪いなかでの進路指導の努力が感じられる。卒業後の進路として正規の就労に至る生徒がたいへん少ないとの現状を変えていく必要がある。4年間継続して通学できる生徒に対して進路指導を計画的に粘り強く推進していただきたい。

■大項目2 学校経営の状況

小項目1 学校の管理運営等の状況

■教育目標の設定・実施状況

- 正規社員の就労生徒がないという現状であるならば、生徒の意欲をより喚起するためにも学習時間の弾力化を図るべきである。

□組織運営及び教員研修の状況

- 将来構想に関する検討委員会が設けられ、教育目標や中期学校経営方針の検討が行われている。授業中の生徒の不適切な行動について、校内研修を通じて共通認識を深めるなどの努力が行われている。

小項目2 保護者・地域等との連携協力の状況

□保護者・地域等との連携協力の状況

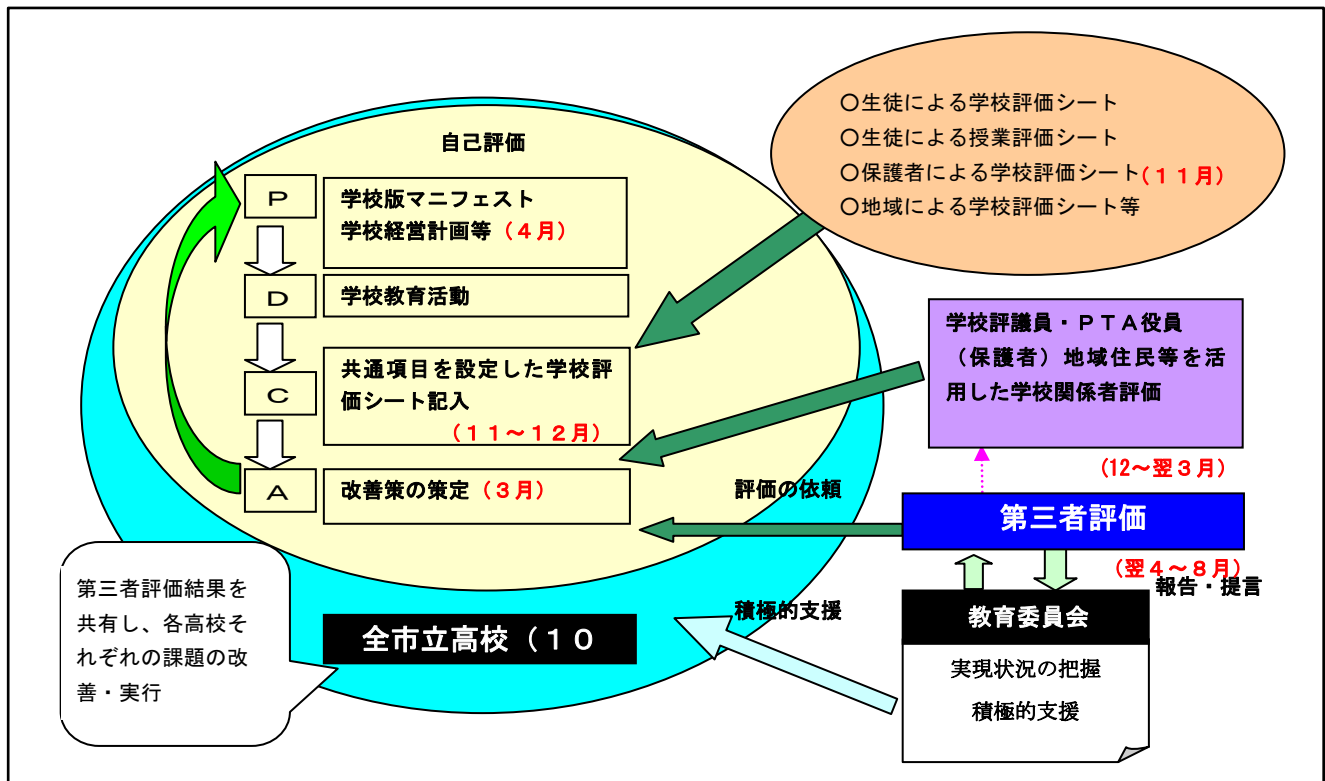
- 生徒の置かれている環境を考慮するとき、保護者や地域との連携はことのほか重要だと思われる。保護者への携帯サイトを使った情報伝達、「まち」とともに歩む学校づくり懇話会を通じての地域との意見交換など、今後も積極的なアプローチが必要である。

■危機管理の状況

- 保護者の防災・防犯に関する評価で、「分からない」という評価の割合が高いことに対する改善策が具体的に示されており、今後期待する。

III 参考

1 横浜市立高等学校評価の体系図



2 横浜市立高等学校評価委員会 委員構成 (委員は50音順)

	氏名	所属等
委員長	小松 郁夫	玉川大学教職大学院 教授
副委員長	千賀 重義	横浜市立大学 名誉教授
副委員長	上野 淳	首都大学東京 副学長
委員	大澤 寛	横浜市東戸塚地区センター 館長
	大野 浩一	横浜青年会議所 常任理事
	落合 優	横浜国立大学教育人間科学部 教授
	長島 由佳	横浜市PTA連絡協議会 会長
	西村宗一郎	神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校長
	森田 真	横浜市立中学校長会(横浜市立矢向中学校長)

3 書類調査・訪問調査担当校一覧（委員は50音順）

◇ 訪問調査

1班 【調査日】 平成22年6月25日（金）

【訪問調査校】 横浜市立桜丘高等学校

委員長	小松 郁夫	玉川大学教職大学院教授
委員	長島 由佳	横浜市PTA連絡協議会 会長
	西村宗一郎	神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校長

2班 【調査日】 平成22年6月30日（水）

【訪問調査校】 横浜市立横浜総合高等学校

副委員長	上野 淳	首都大学東京 副学長
委員	大澤 寛	横浜市東戸塚地区センター 館長
	森田 真	横浜市立中学校長会(横浜市立矢向中学校長)

3班 【調査日】 平成22年6月21日（月）

【訪問調査校】 横浜市立東高等学校

副委員長	千賀 重義	横浜市立大学名誉教授
委員	大野 浩一	横浜青年会議所 常任理事
	落合 優	横浜国立大学教育人間科学部教授

◇ 書類調査

1班 【調査日】 平成22年5月26日（水）

【書類調査校】 横浜市立金沢高等学校、横浜市立みなと総合高等学校
横浜市立鶴見工業高等学校

委員長	小松 郁夫	玉川大学教職大学院教授
委員	大澤 寛	横浜市東戸塚地区センター 館長
	大野 浩一	横浜青年会議所 常任理事

2班 【調査日】 平成22年6月7日（月）

【書類調査校】 横浜市立南高等学校、横浜市立横浜商業高等学校
横浜市立横浜商業高等学校別科

副委員長	上野 淳	首都大学東京 副学長
委員	落合 優	横浜国立大学教育人間科学部教授
	西村宗一郎	神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校長

3班 【調査日】 平成22年6月9日（水）

【書類調査校】 横浜市立戸塚高等学校、横浜市立戸塚高等学校定時制
横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

副委員長	千賀 重義	横浜市立大学名誉教授
委員	長島 由佳	横浜市PTA連絡協議会 会長
	森田 真	横浜市立中学校長会(横浜市立矢向中学校長)

4 平成22年度 横浜市立高等学校 重点取組項目一覧

学校名	金 沢	桜 丘	戸 塚	東	南	鶴 見 工 業	Y S F H	横 浜 商 業	み なと 総 合	横 浜 総 合	戸 塚 定 時	横 商 別 科
評価項目												
大項目 1 教育活動の状況												
小項目 1 各教科等の状況												
□教育課程の状況	■	■							■	■	■	■
□教科指導の状況	■				■	■	■					
□特別活動・部活動の状況								■				
小項目 2 生徒の状況												
□生徒指導・教育相談の状況			■	■		■			■	■	■	■
□進路指導の状況	■	■	■				■	■	■			
□保健指導及び環境美化の状況												
大項目 2 学校経営の状況												
小項目 1 管理運営等の状況												
□教育目標等の設定・実施状況							■				■	■
□組織運営及び教職員研修の状況	■		■		■	■			■	■		
□学校経理、施設・設備及び情報の管理状況		■								■		
小項目 2 保護者・地域等との連携協力の状況												
□保護者・地域等との連携協力の状況			■			■	■	■	■	■		■
□危機管理の状況				■							■	
□学校に関する情報公開の状況	■	■										

5 訪問調査校の評価について

- 訪問調査校の評価は、学校から提出された「自己評価書」及び「学校関係者評価書」における各学校が実施した学校評価の結果を参考として、訪問調査での調査結果を分析・総合して、「小項目」単位で次のとおり評価します。学校の総合評価については、全体を総合的に判断して、次のとおり評価します。

◇評価「優れている」（優れている状況にある）

優れた取組や状況等が見られ、課題は少ないか、又は改善に向けた取組が効果的に成果を上げている様子が見られる状況。

◇評価「良い」（良い状況にある）

良い取組や状況等が見られ、課題は多少あるが、改善に向けた取組が成果を上げつつある様子が見られる状況。

◇評価「おおむね満足」（課題はあるがおおむね満足できる状況にある）

課題はあるが、改善に向けた取組が見られるなど深刻な状況はみられず、通常求められる学校運営がおおむねなされている様子が見られる状況。

◇評価「要改善」（課題が多く速やかな改善が必要な状況にある）

課題がとても多いか、又は深刻な状況にあり、直ちに改善を図らなければならない様子が明らかに見られるが、改善に向けた取組に着手できていないか、又はほとんど成果を上げていない様子が見られる状況。

◇評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----